

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2025年第12週 2025年3月17日（月）～2025年3月23日（日） 2025年3月27日作成

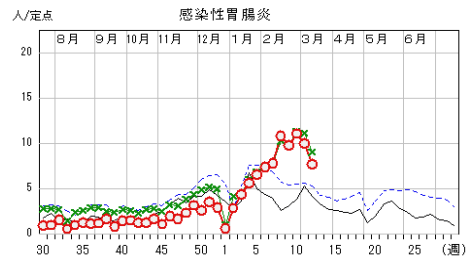
☆定点[※]報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1） 感染性胃腸炎

第12週の報告数は331人で、前週より99人少なく、定点当たりの報告数は7.70であった。

年齢別では、10～14歳（47人）、2歳（36人）、6歳（36人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（20.33）、佐世保市保健所（11.80）、県央保健所（10.57）であった。

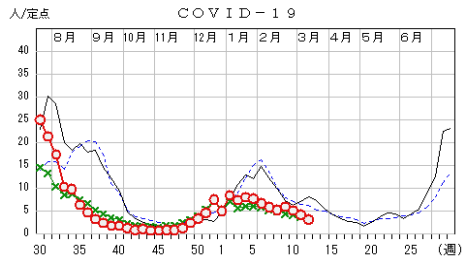


（2） 新型コロナウイルス感染症

第12週の報告数は216人で、前週より68人少なく、定点当たりの報告数は3.13であった。

年齢別では、50～59歳（32人）、80歳以上（27人）、40～49歳（26人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、対馬保健所（5.00）、長崎市保健所（4.29）であった。

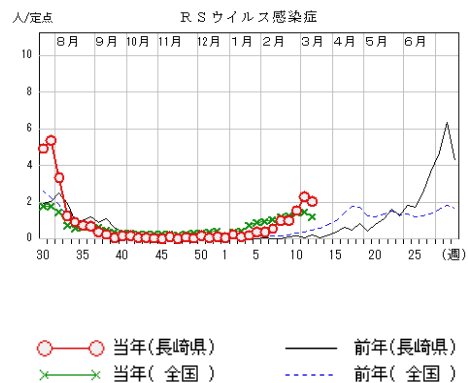


（3） RSウイルス感染症

第12週の報告数は87人で、前週より11人少なく、定点当たりの報告数は2.02であった。

年齢別では、1歳未満（47人）、1歳（30人）、2歳（6人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所（6.00）、県央保健所（2.86）であった。



※インフルエンザ/COVID-19定点数：69、小児科定点数：43、眼科定点数：8、基幹定点数：12

☆上位3疾患の概要

【感染性胃腸炎】

第12週の報告数は331人で、前週より99人少なく、定点当たり報告数は7.70でした。地区別にみると、県北地区（20.33）は、警報レベルの報告数となっています。今後も動向に注意しましょう。本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

【新型コロナウイルス感染症】

第12週の報告数は216人で、前週より68人少なく、定点当たり報告数は3.13でした。地区別にみると、対馬地区（5.00）、長崎地区（4.29）は他の地区より多くなっています。年代別では、50代（14.8%）、10歳未満（14.4%）、80代以上（12.5%）の順に多くなっています。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避など基本的な感染対策に努めましょう。

【RSウイルス感染症】

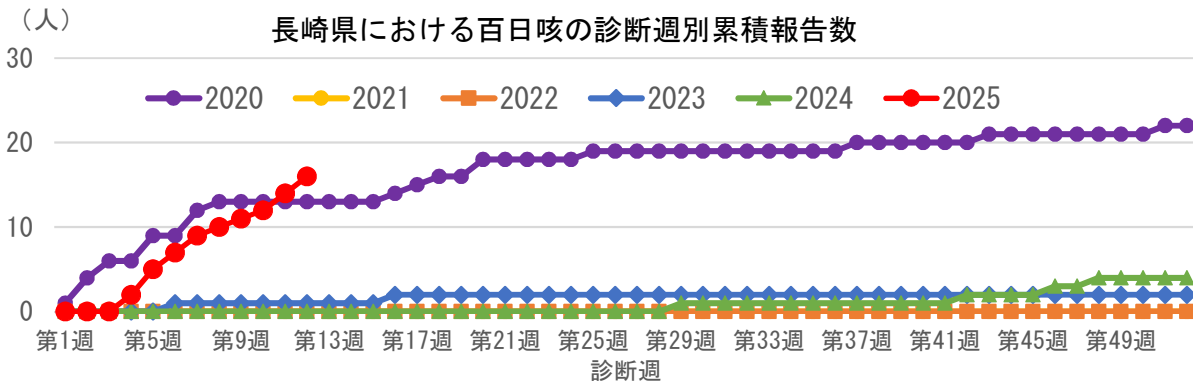
第12週の報告数は87人で、定点当たりの報告数は2.02でした。地区別では、佐世保地区（6.00）、県央地区（2.86）が他の地区より多くなっています。

RSウイルス感染症は、発熱や鼻水が主な症状の呼吸器感染症で、通常は軽症で済みますが、一部は重い咳が出て呼吸困難や肺炎になることもあります。接触感染や飛沫感染で一度かかっても再感染し、大人も感染することがあります。乳幼児、特に6ヶ月未満の乳幼児が本ウイルスに罹患すると、呼吸困難を伴う重篤な細気管支炎や肺炎、脳症を発症することがありますので、心臓などに基礎疾患のある小児では特に注意が必要です。乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

☆トピックス：百日咳の報告が多くなっています

百日咳は、主に百日咳菌の感染によっておこるけいれん性の咳発作を特徴とする気道感染症です。潜伏期は通常5～10日で、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増え程度も激しくなります。夜間の咳発作が多いことも特徴で、回復までに2～3か月かかることもあります。また、乳児では、肺炎、脳症を合併し、重症化することもあります。

ワクチンの定期接種により発生数は激減していますが、2025年は第12週までに16件の報告があり、過去5年と比較して多くなっています。年代別では、10代が8割以上を占めています。感染経路は飛沫感染ですので、咳エチケット、手洗い、手指消毒で予防に努めましょう。

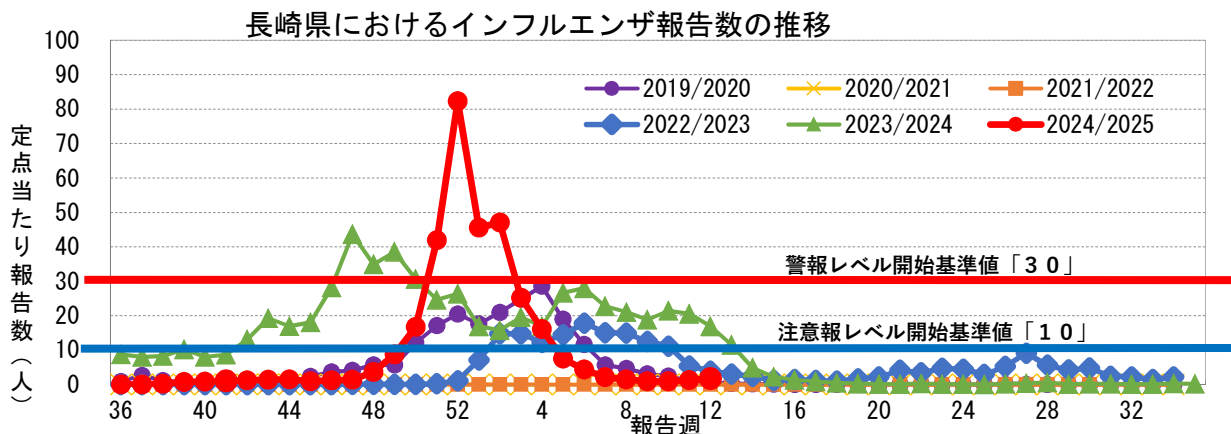


☆トピックス：インフルエンザに注意しましょう

インフルエンザの2025年第12週の報告数は119人で定点当たり報告数は「1.72」となり、2週続けて増加しました。年代別では、10歳未満（49%）、10代（34%）が多くなっています。

また、長崎県環境保健研究センターにおいて、2024/2025シーズンに搬入された検体から、インフルエンザA/H1pdm09、A/H3、B/victoria系統の遺伝子が検出されています。

今後も手洗いの励行、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策に努め、感染予防を心がけましょう。



☆トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。これらの感染症の報告数は、ダニの活動が活発になる4月頃から増加します。

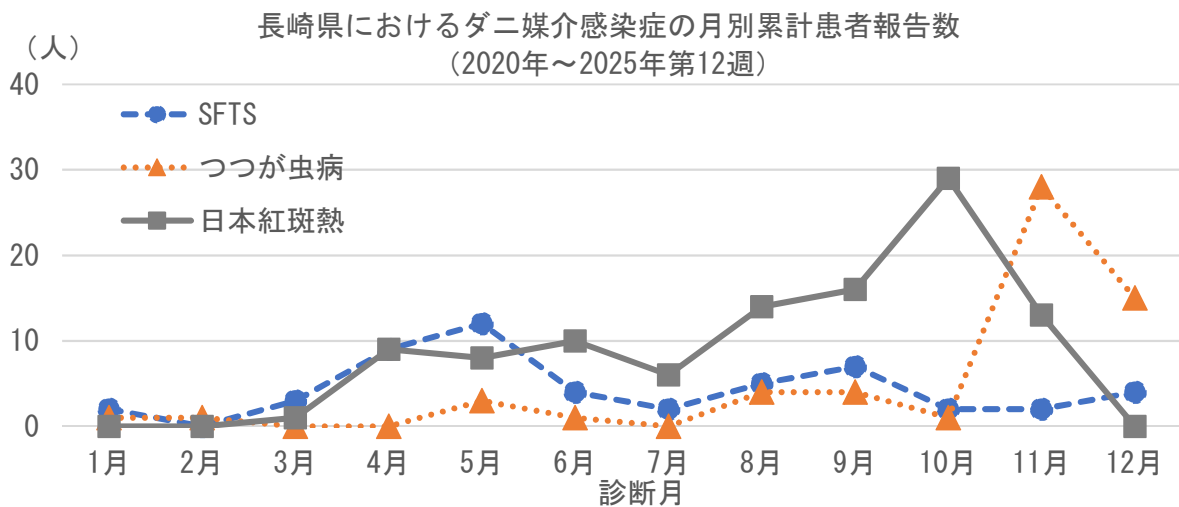
マダニ類が媒介するSFTSは、発熱、消化器症状が主な症状で、重症化して死亡することもあります。県内では2025年第12週に1件の報告がありました。近年、SFTSを発症したネコ及びイヌの症例が確認されており、これらの動物の血液や糞便からSFTSウイルスが検出されています。SFTS以外の感染症に対する予防の観点からも、動物を飼育している場合は過剰な触れ合いを控え、動物由来の感染に注意しましょう。

マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

年	2020	2021	2022	2023	2024	2025
SFTS	8 (0)	6 (1)	6 (1)	13 (0)	13 (2)	1
日本紅斑熱	18 (0)	28 (0)	22 (0)	14 (0)	23 (0)	0
つつが虫病	11 (0)	14 (0)	7 (0)	15 (1)	11 (1)	0

※()は第12週までの発生件数



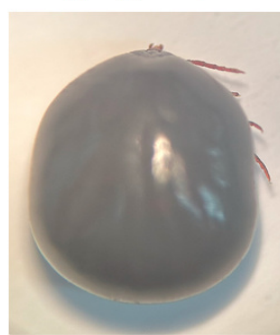
タカサゴキララマダニ



吸血中のマダニ



吸血後のマダニ



◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 男性（50代・1名、70代・2名） 女性（80代以上・1名）

3類感染症：報告なし

4類感染症：重症熱性血小板減少症候群 患者 女性（70代・1名）
レジオネラ症 無症状病原体保有者 女性（50代・1名）

5類感染症(全数把握対象)：梅毒 患者 男性（20代・1名）
百日咳 患者 女性（10歳未満・1名、10代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第7～12週、2/10～3/23)

疾患名	定点当たり患者数					
	7週	8週	9週	10週	11週	12週
	2/10～	2/17～	2/24～	3/3～	3/10～	3/17～
インフルエンザ	2.10	1.50	0.93	0.90	1.33	1.72
新型コロナウイルス感染症	5.87	5.17	5.90	5.10	4.12	3.13
RSウイルス感染症	0.55	0.98	0.98	1.53	2.28	2.02
咽頭結膜熱	0.34	0.43	0.34	0.60	0.56	0.53
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	3.45	3.66	2.84	3.12	3.49	1.98
感染性胃腸炎	7.80	10.86	9.82	11.09	10.00	7.70
水痘	0.16	0.34	0.18	0.33	0.05	0.19
手足口病	0.02		0.02			
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.07	0.23	0.11	0.07	0.33	0.23
突発性発しん	0.25	0.09	0.18	0.19	0.33	0.16
ヘルパンギーナ			0.05	0.02		
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）		0.05		0.02	0.02	0.05
急性出血性結膜炎	0.38		0.50	0.25	1.00	
流行性角結膜炎	1.75	2.00	0.75	1.50	0.63	0.38
細菌性髄膜炎	0.08			0.08		0.08
無菌性髄膜炎			0.17		0.08	
マイコプラズマ肺炎	0.50	0.42	0.50	0.25	0.17	0.42
クラミジア肺炎（オウム病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）		0.17	0.08	0.17	0.08	0.17

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第12週、3/17～3/23) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	1.72	4.60	0.53	6.67	0.17	3.09	0.13	2.00			
新型コロナウイルス感染症	3.13	2.60	4.29	1.00	3.00	2.91	2.75	3.00	1.75	2.67	5.00
RSウイルス感染症	2.02	6.00	1.20		1.25	2.86	1.80	1.33	1.67		1.00
咽頭結膜熱	0.53	0.20	1.10		0.25	0.29	0.40	2.00			
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	1.98	1.80	0.40		1.50	0.71	8.60	3.33	0.67		3.00
感染性胃腸炎	7.70	11.80	9.50		8.25	10.57	1.60	20.33			0.50
水痘	0.19	0.80	0.40								
手足口病											
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.23	0.40	0.80								
突発性発しん	0.16	0.40	0.40			0.14					
ヘルパンギーナ											
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.05		0.10							0.50	
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	0.38		1.00								
細菌性髄膜炎	0.08	1.00									
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	0.42		0.33					4.00			
クラミジア肺炎（オウム病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.17		0.67								